

競 技 注 意 事 項

1. 規則について

本大会は2015年度(公財)日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項により行う。

2. 練習場について

- (1) バックスタンド裏の練習場で練習を行うこと。それ以外の練習は他の選手、一般の方の迷惑にならないように十分に配慮すること。
- (2) 投擲練習は禁止する。練習は2次招集後に投擲審判員主任の指示のもとで行うこと。

3. 招集について

- (1) 各競技の1次招集時間は下記の通りである。

種 目	開 始 時 刻	完 了 時 刻
トラック・リレー競技	競技開始50分前	競技開始30分前
フィールド競技	競技開始60分前	競技開始40分前
棒高跳	競技開始90分前	競技開始70分前

※1次招集は室内練習場内の競技者係にて行う。

- (2) 招集は、原則として選手自身がユニフォーム・ゼッケン(胸・腰)・スパイクの確認を受ける(1次招集に選手自身が来られない場合は、1次招集開始時刻までに重複出場届を提出し、代理人が『重複出場届の控え』を1次招集時に競技者係に提示する)。そして、コール用紙のレーンナンバーを丸で囲み1次招集の完了とする。二次招集は現地で行う。

4. 棄権について

- (1) 当日棄権は原則として認めない。やむを得ず当日棄権をする場合は、棄権者届用紙に必要事項を記入の上、大会本部の総務に提出して承認を得ることで、棄権が認められる場合がある。
- (2) コール漏れ(現地招集を含む)は棄権とみなしその種目の出場を認めない。

5. 競技者の服装について

- (1) ナンバーカードは平成27年度登録番号を用い、必ず学連配布の物を使用すること。
- (2) 競技者は、競技者係で配布される腰ナンバーカードを1500m未満のトラック種目については右腰に、1500m以上のトラック種目については両腰に明瞭につけること。尚、このナンバーカードは競技終了後直ちに回収する。途中棄権の場合も返却すること。
- (3) スパイクのピンは9mm以下の全天候舗装用を使用すること。
(但し、走高跳、やり投については12mmまで使用可)

6. 競技運営について

- (1) 全てのトラック種目の走路順、フィールド種目の試技順は、プログラム記載の順で上から下へ行う。但し、走高跳・棒高跳はこの限りではない。
- (2) 競技会において競技者はビデオ、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器のトラック及びフィールド内への持ち込み・使用を禁止する。
- (3) 競技場のトラック、フィールド内には競技者以外は立ち入らないこと。
- (4) 競技中の選手に対する助言は2015(公財)日本陸上競技連盟規則に従う。またフィールド競技に関しては現場の審判員がトラック競技の進行に注意しながら許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行ける。しかし審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・ヘッドコーチ等で協議し対処する。

7. トラック競技について

- (1) トラック競技の計時は電動計時(1/100秒)とする。但し、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時(1/10秒)とする。
- (2) 5000mに関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、男子 18分・女子 21分の時間の経過時点で、残り一周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

8. 不正スタートについて

- (1) 今大会はフライング1発失格とする。
- (2) スタートのコールは英語にて行う。
- (3) フライングの判定は目視にて判断する。
- (4) 不正スタートに関する参考資料としてビデオ撮影を行う場合がある。

9. フィールド競技について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は以下の通り。

	種目	ピット	練習	試技開始	
男子	走高跳	Aピット	1m80cm	1m85cm	2m00cm まで 5cm 刻み、以降 3 c m 刻み
		Bピット	1m70cm	1m75cm	
	棒高跳	Aピット	3m40cm	3m60cm	4m60cm まで 20cm 刻み、以降 10 c m 刻み
女子	走高跳	Aピット	1m30cm	1m40cm	1m70cm まで 5cm 刻み、以降 3 c m 刻み
	棒高跳	Aピット	2m60cm	2m80cm	3m60cm まで 20cm 刻み、以降 10 c m 刻み

- (2) 三段跳の踏切板の位置に関して女子は 10m, 男子は 13m とする。
- (3) 投擲種目の公式練習は、2 投までとする。ただしハンマー投は 1 投とする。
- (4) 棒高跳の公式練習はゴムバーを使用する。

10. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用する。但し棒高跳用ポールは私物使用を認めるが他大学の競技者が器具を使用することに同意した上で持ち込むこと。また、当日以外の受付は原則として認めない。
棒高跳用ポールは各大学で責任を持って管理すること。ポールの管理に関して幣連盟は一切責任を負わない。
棒高跳び用ポールの輸送については、各大学の責任で行うこととする。
やりについては競技開始 1 時間前に用器具庫前で行う本部の検定を受けて合格したものに限り使用を認める。やりの検定受付時間は競技開始 90 分前から 60 分前までとする。
- (2) 主催者で用意した備品の紛失、破損については当該選手の所属大学が弁償代を負担すること。
- (3) 競技場備品の紛失、破損については別途仲介料を徴収する。
- (4) 競技場でのポールの保管は競技時間内までとする。これを超えた一切の保管は認めない。
- (5) ハードル種目の練習において、ハードルを手などで倒すことを禁止する。

11 表彰について

- (1) 各種目 1 位から 3 位までに入賞した競技者は、正式結果発表の 30 分以降に大会本部まで賞状を取りに来ること。

12. 抗議の申し立てについて（競技規則等 146 条）

- (1) 競技進行に起きた行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの監督から結果が正式に発表（アナウンス）されてから決勝の場合は 30 分以内、次のラウンドが行われる競技では 15 分以内に、口頭で審判長に申し出なくてはならない。

13. 競技場使用上の注意

- (1) 開門時間は両日とも 8 時 30 分とし、中央門のみを開門する。**なお、本大会では南西門の開門は行わないものとする。**
- (2) 閉門時間は 1 日目競技終了 30 分後、2 日目は閉会式終了 30 分後とする。
- (3) トラック内での練習は両日とも競技開始 15 分前までとする。ただし大会準備の邪魔にならないよう気をつけること。
- (4) 競技場内での喫煙は一切認めない。これらの行為が見られた場合、その者に対し厳重な処罰を与える。
- (5) 芝生への進入は一切禁止する。
- (6) 屋内において練習場以外では必ずスパイクシューズを脱ぐこと。
- (7) メインスタンドでの集団応援は一部を除き終日禁止とする。当日何らかの方法で場所を区切るの
で注意すること。

14. その他

- (1) 競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2015年(公社)日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているため、この保険が適用される場合がある。
- (2) 学生競技者としてのマナーを逸脱した行為が見受けられた場合は、その学生の所属する大学の以後の競技を中止させ、処罰を与える。
- (3) 競技者の本部前の通行は禁止する。
- (4) 競技終了後、各大学は周囲の清掃を行う。分別されたゴミであれば受付にて受け取る。それ以外は各自で持ち帰ること。
- (5) 当日、学生審判員、補助員を出さない大学は出場を認めない。
- (6) 雨天練習場の更衣室は利用していいが、荷物は各自で管理すること。紛失した場合でも当連盟は一切責任を負わない。
- (7) メインスタンドでの、のぼり・横断幕等の設置は禁止する。
- (8) 競技場に入場する際は全天候走路の保護のため、トレーニングシューズまたはスニーカーを履いて入場すること。それ以外を使用している者について、発見次第、競技場の立ち入りを禁止する。学生審判員・学生補助員についても同様であり、十分に注意すること。
- (9) 役員・審判・学生審判員・学生補助員及び選手以外のグラウンドへの進入は一切禁止する。また、応援はスタンドからのみとする。

関西学生陸上競技連盟